

No.	意見種類 1 修正 2 追加 3 削除 4 その他	目 標	意 見	修正（案）、考え方など
1	3 削除	1 限りあるエネルギーを大切に使う低炭素社会への転換	冒頭の「 <u>エネルギー消費量については、平成23年度（2011年度）の原発事故～エネルギー意識の向上や涼しい夏となった気候の状況等により、家庭部門及び業務部門で減少となっています</u> 」の記載を削除してはどうか？ （理由）30年命の危険がある猛暑では、電力事情を考慮できないくらい猛暑であり、クーラーを推進しなければいけない状況である。たまたま過ごしやすい夏であったため電力需要が下がっただけであり評価できることなのか疑問である。31年も猛暑になる可能性もあるため。	当該箇所については、家庭部門及び業務部門でエネルギー消費量が減少した背景となる事実について言及したものです。仮に猛暑の年にエネルギー消費量が増加したのであれば、同じ考え方で、「暑い夏となった気候の状況により、家庭部門及び業務部門で増加しています」と記載します。 従って、当該箇所については、客観的事実に言及したものであることから、原文のままとさせていただきます。
2	1 修正	1 限りあるエネルギーを大切に使う低炭素社会への転換	・このままでは、エネルギー消費量および温室効果ガスの2020年度までの削減目標の達成は無理であり、具体的な対策の明示が必要である。再エネ導入、省エネ機器への更新・導入に加え、効果の大きい住宅の断熱化も加えてはどうか。 ・目標達成への決意を込めて、最後の文章は、「施策を積極的に取り組んでいく必要があります」を「施策の実行が必須です」と強調してはどうか。	ご意見を踏まえ、「1 限りあるエネルギーを大切に使う低炭素社会への転換」を以下のとおり修正いたします。 【修正案】 11-12行目：・・・、市域における再生可能エネルギーの積極的な導入、省エネ機器等への更新・導入、 <u>住宅の断熱化を進めるなど</u> 、・・・ 19-20行目：・・・「吹田市地球温暖化対策新実行計画（改訂版）」において定めた <u>施策の実行が必須です</u> 。
3	1 修正	1 限りあるエネルギーを大切に使う低炭素社会への転換	「資料1-2」の4ページの図表より、『「家庭部門の年間エネルギー消費量（市民一人当たり）」「業務部門の年間エネルギー消費量」が減少せず、横ばいであり、さらに家庭部門、事業部門の取り組みを強化すべきである』ことを記述すべきである。	家庭部門及び業務部門の年間エネルギー消費量については、過去5年の傾向をみて本記載としていますが、ご意見を踏まえ、「1 限りあるエネルギーを大切に使う低炭素社会への転換」を以下のとおり修正します。 【修正案】 3行目：・・・気候の状況等により、家庭部門及び業務部門で <u>減少傾向となっています</u> 。 7行目：・・・ライフスタイルや事業活動の <u>転換の強化</u> が求められています。

No.	意見種類 1 修正 2 追加 3 削除 4 その他	目 標	意 見	修正（案）、考え方など
4	4 その他	1 限りあるエネルギーを大切に使う低炭素社会への転換	エネルギー消費量が平成27年度を最新としているが、統計データの集約の関係というのは、全国全ての市町村において、そのようになるのか。なお、平成27年度のエネルギー消費量が減少したのは特異な現象なのか。また、産業分野において減少した理由として考えられることは書かれていないが、それについて触れる必要があるのではないか。	<p>例えば、鉄道の電力消費量のデータの把握に使用している鉄道統計年報については公表が2年遅れとなっています。本市にも鉄道路線が存在することから、この統計を活用する必要があります。従って、本市においては、エネルギー消費量の算定が2年遅れとなります。他の市町村においてもこういった2年遅れで公表されている統計を活用している市町村においては、エネルギー消費量の算定が2年遅れになります。</p> <p>平成27年度のエネルギー消費量の減少が特異な現象かどうかについては、今後のエネルギー消費量の推移をみながら、把握してまいります。</p> <p>産業部門のエネルギー消費量が減少した理由としては、エネルギー消費量の大きい鉄鋼業等の製造品出荷額が減少したためです。ご意見を踏まえ、資料1-1「環境審議会評価（案）」のp1の「1 限りあるエネルギーを大切に使う低炭素社会への転換」の4行目及び資料1-2のp4の代表指標の見解の5-6行目を以下のとおり修正いたします。</p> <p>【修正案】 審議会評価（案）：平成27年度（2015年度）は、<u>エネルギー消費量の大きい鉄鋼業等の製造品出荷額が減少したことにより、産業部門においてエネルギー消費量が減少しており、その結果・・・</u></p> <p>代表指標見解：平成27年度（2015年度）は、<u>エネルギー消費量の大きい鉄鋼業等の製造品出荷額が減少したことにより、産業部門においてエネルギー消費量が減少しており、その結果・・・</u></p>
5	1 修正	1 限りあるエネルギーを大切に使う低炭素社会への転換	エネルギー消費量は平成27年度を指標としているが、平成28年3月に作成した「吹田市地球温暖化対策新実行計画」で定めた施策を積極的に進めていく必要がある。という書き方をしているのが、それは当たり前の話ではないか。平成29年度の評価の書き方として、例えば、具体的にその計画のどこを重点的に平成29年度は進めてきたが、この部分は足りていないので、課題として残るなど、そのような評価の書き方はできないでしょうか。	<p>「吹田市地球温暖化対策新実行計画（改訂版）」において定めた施策につきましては、目標達成に向けた効果的な施策を網羅的に記載したものとされています。</p> <p>このため、エネルギー消費量、温室効果ガス排出量等の平成32年度の目標達成に向けては、省エネルギー機器の導入促進や再生可能エネルギーの利用促進だけでなく、「吹田市地球温暖化対策新実行計画（改訂版）」において定めた全施策の取り組みを進めていくことが重要であると考えております。また、意見2を踏まえ、目標達成への決意を込める観点から、「1 限りあるエネルギーを大切に使う低炭素社会への転換」の19-20行目を以下のとおり修正いたします。</p> <p>【修正案】 ・・・「吹田市地球温暖化対策新実行計画（改訂版）」において定めた<u>施策の実行が必須です。</u></p>

No.	意見種類 1 修正 2 追加 3 削除 4 その他	目 標	意 見	修正（案）、考え方など
6	2 追加	2 資源を大切にす社会システムの形成	ゴミの減量、再生資源化を推進する取り組みでレジ袋の無料配布を中止などの取り組みは評価する。市民1人当たりのごみの排出量は、人口が27年度より増加しているのに年間排出量が横ばいであるので、評価できるといいたいのだろうが、事業系ごみは、全然減少していないことをどう評価するのか？評価を家庭ごみと事業系ごみに分けて評価を入れてはどうか？	ご意見を踏まえ、「2 資源を大切にす社会システムの形成」の5行目を以下のとおり修正します。 【修正案】 ・・・、改善の兆しが見られます。一方で、ごみ年間焼却処理量及び事業系ごみの年間排出量については、目標の達成が難しい状況です。このままでは、2020年度の目標達成は極めて困難な状況にあることから、今後さらに・・・
7	1 修正	2 資源を大切にす社会システムの形成	ここ数年の実績を見ると、市民1人当たりのごみの排出量およびリサイクル率の2020年度の目標達成は極めて困難な状況にあるといえる。従って、5行目の「目標達成に向け」を「ただし、このままでは、2020年度の目標達成は極めて困難な状況にあることから」に修正してはどうか。	ご意見を踏まえ、「2 資源を大切にす社会システムの形成」の3-4行目を以下のとおり修正いたします。 【修正案】 ・・・レジ袋の無料配布を中止する趣旨の協定の締結を平成30年2月に実施する等、取組の前進がみられ、今後は持参率が向上することが見込まれます。 なお、今後への期待を込めて、「今後は持参率が向上することが見込まれます。」としています。
8	4 その他	2 資源を大切にす社会システムの形成	この評価はあくまで、平成29年度の進捗状況であるが、平成30年6月のレジ袋無料廃止の内容が具体的に記載されている。平成29年度の評価に書き込むことは適切か。（29年度から計画していた等の理由があるなら、計画をしており、次年度の取り組みに期待したい等を記入できる程度ではないか。）	ご意見を踏まえ、「2 資源を大切にす社会システムの形成」の3-4行目を以下のとおり修正いたします。 【修正案】 ・・・レジ袋の無料配布を中止する趣旨の協定の締結を平成30年2月に実施する等、取組の前進がみられ、今後は持参率が向上することが見込まれます。 なお、今後への期待を込めて、「今後は持参率が向上することが見込まれます。」としています。

No.	意見種類 1 修正 2 追加 3 削除 4 その他	目 標	意 見	修正（案）、考え方など
9	1 修正	2 資源を大切にする社会システムの形成	「2 資源を大切にする社会システムの形成」について、「・・・、市民1人当たりのごみ排出量（1日）は、年々減少傾向にある。」とあるが、28年度と29年度を比較すると、横ばいである。そういった点を踏まえ、審議会評価とすべきではないか？	<p>ご意見を踏まえ、資料1-1「環境審議会評価（案）」のp1の「2 資源を大切にする社会システムの形成」の1-2行目及び資料1-2のp5の「2 資源を大切にする社会システムの形成」の代表指標の見解の2-3行目を以下のとおり修正いたします。</p> <p>【修正案】 審議会評価（案）：市民1人当たりのごみ排出量は、ごみ減量・再資源化を推進する様々な取組の結果、減少傾向にありましたが、前年度と比べると横ばいとなっています。</p> <p>代表指標見解：・・・、市民1人当たりのごみ排出量（1日）は、減少傾向にありましたが、前年度と比べると横ばいとなっています。</p>
10	1 修正	3 健康で快適な暮らしを支える環境の保全	透水性舗装面積の累計が平成29年度に目標を達成しています」とあるが、目標を達成したら、その取り組みは完了したように読み取れる。「引き続き、透水性舗装面積の拡大に取り組む」などの記述が必要だろう。	透水性舗装については、蓄熱抑制化の一環であると考えております。透水性舗装の拡大に向けた取組についても、最終文に、「・・・建築物・道路・駐車場の蓄熱抑制化など、地域特性に応じた具体的な施策や取組を進める必要があります」という形で、まとまった表現ではございますが、言及していることから、原文のままとさせていただきます。

No.	意見種類 1 修正 2 追加 3 削除 4 その他	目 標	意 見	修正（案）、考え方など
11	2 追加	4 みどりを保全・創出・活用し、市民に親しまれるまちの形成	2つの代表指標（吹田市域の緑被率および木々や草花などの緑が多いのでまちに愛着や誇りを感じる市民の割合）については、2017年度調査が行われていない。5の快適な都市環境の創造と同様に、「調査は実施されていませんが、吹田市第2次みどりの基本計画 改定版に基づき、今後も緑化を推進する必要があります」という趣旨の記述が必要ではないか。	<p>ご意見を踏まえ、「4 みどりを保全・創出・活用し、市民に親しまれるまちの形成」を以下のとおり修正いたします。</p> <p>【修正案】 6-8行目：平成29年度（2017年度）は、指標に関する調査が実施されていませんが、今後も、平成28年（2016年）8月に改訂された「吹田市第2次みどりの基本計画 改定版」に基づき、質及び量の双方を重視した緑化を推進する必要があります。</p> <p>また、同じく指標に関する調査を実施していない「5 快適な都市環境の創造」につきましても、構成を「4 みどりを保全・創出・活用し、市民に親しまれるまちの形成」と合わせる観点から、以下の通り修正いたします。</p> <p>【修正案】 1-3行目の文言を最終文の後ろに移動： ・・・効果的に誘導することが必要です。 平成29年度（2017年度）は、指標に関する調査が実施されていませんが、今後も目標値達成のため、引き続き市民・事業者等への啓発や取組みの支援を進めるとともに、開発事業に対する誘導に取組んでいく必要があります。</p>
12	4 その他	4 みどりを保全・創出・活用し、市民に親しまれるまちの形成	重点プロジェクトの市民との協働のところには記入されているが、生物多様性に関する記述が明らかに少ないと感ぜられるが、何か理由はあるのか。	<p>「第2次環境基本計画 改訂版」において、生物多様性に関する施策等の記述が少ないため、審議会評価案においても生物多様性に関する記述が少なくなっております。このことは課題と認識しており、本年度から来年度にかけて実施する第3次環境基本計画の改定作業の中で検討いたします。</p>

No.	意見種類 1 修正 2 追加 3 削除 4 その他	目 標	意 見	修正（案）、考え方など
13	1 修正	5 快適な都市環境の創造	交通バリアフリーについて、環境基本計画として100パーセントを平成32年度目標設定としているのであれば、障害者差別解消法ができて2年も経つのに、52パーセントでは前年度から増えているから進んでいるという評価とは言い難いのではないのでしょうか。少し表記の仕方を工夫すべきではないか。	ご意見のとおり、移動経路のバリアフリー化率は年々増加しているものの、目標達成に向けての課題はあります。そういった現状を踏まえ、「5 快適な都市環境の創造」の6-7行目を、「ただし、移動経路のバリアフリー化率の目標達成のためには、加速度的に取組を進める必要があります」としています。したがって、原文のままとさせていただきます。
14	2 追加	重点プロジェクト ①地球温暖化対策の推進	吹田市第2次環境基本計画において、この地球温暖化対策の推進の内容に「低炭素まちづくりの検討及び推進」という文章があり、評価においても、この文章を入れてはどうか。例えば、最後から3行目において、「地域特性に応じた施策や取り組みによる低炭素まちづくりを展開するとともに」としてはどうか。	ご意見を踏まえ、「重点プロジェクト ①地球温暖化対策の推進」の9-10行目を以下のとおり修正します。 【修正案】 ・・・、市民・事業者との連携のもと、 <u>地域特性に応じた施策や取組による低炭素まちづくりを展開するとともに、公共施設における</u> ・・・
15	1 修正	重点プロジェクト ①地球温暖化対策の推進	「環境に配慮した小売り電気事業者が開始される」との記述は理解しがたく、表現を工夫して理解しやすい表現にしてください。	ご指摘のとおり表現が誤っておりましたので、「重点プロジェクト ①地球温暖化対策の推進」の7-8行目を以下のとおり修正します。 【修正案】 ・・・、 <u>再生可能エネルギー比率の高い電気を供給する小売電気事業者からの電力調達</u> が開始されるなどの・・・

【環境審議会評価（案）以外への意見一覧】

No.	意見	修正（案）、考え方など
1	<p>ペットボトルの回収について、吹田市民の意識の高さから、お店におけるペットボトル拠点回収等も進んでいる。市の回収費用をかけずに、市民の意識の高い取り組みは評価できると思うが、その回収率を現在、市は把握できていない。お店において回収されたペットボトルもリサイクル率計算に入れ込むことができれば一段とリサイクル率は高まると考える。計算手法は規定があるとしても、まずは、吹田市のお店において、拠点回収されているペットボトルの数等について集計することはできないか。（市として、実際のリサイクル率を把握することができ、また、市民の回収意識レベルを知ることができる）</p>	<p>ペットボトルの拠点回収については、公民館等の公共施設だけでなく、スーパー等の商業施設等でも実施しています（合計108か所（平成30年4月1日現在））。拠点回収したペットボトルのうち、100か所については行政が回収し、重量を把握して、リサイクル率に反映しています。事業者が自主回収している8か所については、ご意見を踏まえ、回収量等を把握できる手法について研究いたします。</p>
2	<p>「環境パートナーシップの推進」／「食ロス削減」の取組 アジェンダ21では、「食品ロス削減プロジェクト」として平成29年度より取組みを開始し、アンケートの実施など進めています。この記述として資料1-2の13頁辺りに追記されてはと思います。先日、市役所の地下食堂で、ごはんを半分残す人を見かけました。急ぎ、「食べ残し量」を見える化すると共に、「食べ残し削減活動」を率先して取り組まれたらと思います。</p>	<p>ご意見を踏まえ、資料1-2の13頁の「①活動や交流・連携の場を備えたプラットフォーム組織の形成・拡充の支援」の1つ目の実績に以下の文言を追加するとともに、当該箇所の評価を△→○に改めます。</p> <p>【修正案】</p> <ul style="list-style-type: none"> 食品ロス削減の取組として、JR吹田駅前商店街の店舗を対象に食品ロスに関するアンケート調査を実施した。37店舗からアンケートに対する回答があり、うち9店舗にヒアリングを行った。 <p>また、頂いたご意見は今後の取組の参考にいたします。</p>
3	<p>「水循環の有効と健全な水循環の推進」見直し 雨水貯留タンクの設置助成事業は平成28年度から廃止されておられます（参考資料1の12頁）。しかし、今後は、水循環基本法や気候変動適応法に鑑み、改めて非常用浄水設備（手動式やエンジン式）の設置推進、雨水利用や家庭用雑用水製造法の指導普及、8/1「水の日」取組等を進める必要があると思います。</p>	<p>雨水の有効利用等については、今後ご意見を参考に検討させていただきます。</p>

【環境審議会評価（案）以外への意見一覧】

No.	意見	修正（案）、考え方など
4	<p>「省エネルギー機器等の導入促進」／参考資料1の3頁「【2】公共施設における省エネルギー機器等への改修および導入を進めます」項の関連／南吹田下水処理場の水銀灯の更新</p> <p>今年4月の市民見学会の折、1000灯からの天井照明が、まだ水銀灯のままでした。水銀灯は省エネ面からLEDなど高効率照明への更新が推奨されており、また2020年から製造禁止となることから、早く更新を実施すべきと思います。例えば水銀灯400WをLEDランプに更新すれば70W程で済みます。寿命も長くなるので、高所での球交換作業が減ります。</p>	<p>公共施設における照明のLED化については、一部の施設で進めていますが、今後ご意見を参考に取組の検討を進めてまいります。</p>
5	<p>資料1-2のp6の「3 健康で快適な暮らしを支える環境の保全」の「熱帯夜日数」の見解について、5年移動平均値の上昇要因として平成24年度と平成29年度の比較について記載されているが、それぞれの年の熱帯夜日数についても記載されてはどうか？</p>	<p>ご意見を踏まえ、資料1-2のp6の「3 健康で快適な暮らしを支える環境の保全」の「熱帯夜日数」の見解の1-4行目を以下のとおり修正いたします。</p> <p>【修正案】 <u>平成24年度（2012年度）の熱帯夜数が34日であったのに対し、平成29年度（2017年度）が37日と3日増加したため、5年移動平均値が上がった。・・・</u></p>
6	<p>資料1-2のp7の「4 みどりを保全・創出・活用し、市民に親しまれるまちの形成」の「緑化路線延長累計」の見解について、目標をすでに達成しているものの、質についても考慮した取組が重要である。平成30年3月に質の面でも考慮した「吹田市道路・公園樹木適正管理指針」を策定しているので、それを踏まえた内容としてはどうか？</p>	<p>ご意見を踏まえ、資料1-2のp7の「4 みどりを保全・創出・活用し、市民に親しまれるまちの形成」の「緑化路線延長累計」の見解の3行目以降を以下のとおり修正します。</p> <p>【修正案】 <u>・・・目標値を達成した。取組については、平成30年（2018年）3月に策定した吹田市道路・公園樹木適正管理指針に基づき、実施する。</u></p>